

研究科・専攻名

家政学研究科・生活造形学専攻

教育課程・学習成果の検証

1. 研究科・専攻の教育課程について、院生の履修状況に対して開講科目数は適切か、非常勤講師比率は適切か、院生にとって体系的な科目編成となっているか等を検証

【検証結果（全体概要）】

授業構成に基づき各教員が授業や研究の工夫を行っており、学生の研究に関する充実感に現れていると判断できる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

授業に対する教員の工夫や努力が学生の研究に関する充実感に現れている。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

2. 「大学院生アンケート」等の資料を参考に、研究科・専攻の教育について、効果が挙げられている点、改善すべき点を検証

【検証結果（全体概要）】

回答数が少ないが、学生が課題やレポートなどに積極的に取り組んでいる一定の傾向が把握できる。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

学生が課題やレポートなどに積極的に取り組んでいることが把握できる。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

3. 研究科・専攻として、教育の質向上・改善に向けた組織的な取り組み（FD）をおこなっているか。おこなっている場合、それはどのような内容か、どのような課題認識に基づくものか。

【検証結果（全体概要）】

異なる専門分野の研究者が教員である事により、多角的な視点から学生の研究成果を評価する合同研究会を行っており、研究内容の質的向上に寄与していると言える。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

異なる専門分野の教員によって、多角的な視点から学生の研究成果を評価する合同研究会は、研究内容の質的を向上している。

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

4. 教員組織の編成（採用・昇任等）にあたって、職位構成および年齢構成のバランスに配慮した編成をおこなっているか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。

【検証結果（全体概要）】

教員組織の年齢構成において、高年齢化していることは認めざるを得ない。昇任人事については、内規を 2019 年度に見直し、2020 年度から運用している。

【成果および向上施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項無し

【課題および改善施策】 ※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

平均して高年齢化しているのは、社会状況を反映していると言えるが、若手の研究者/教員の増員が求められる。